

瀬戸内海で採集された北の高級魚ババガレイ

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2025-07-29 キーワード: 作成者: 重田, 利拓 メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2015026

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



トピックス

瀬戸内海で採集された北の高級魚ババガレイ

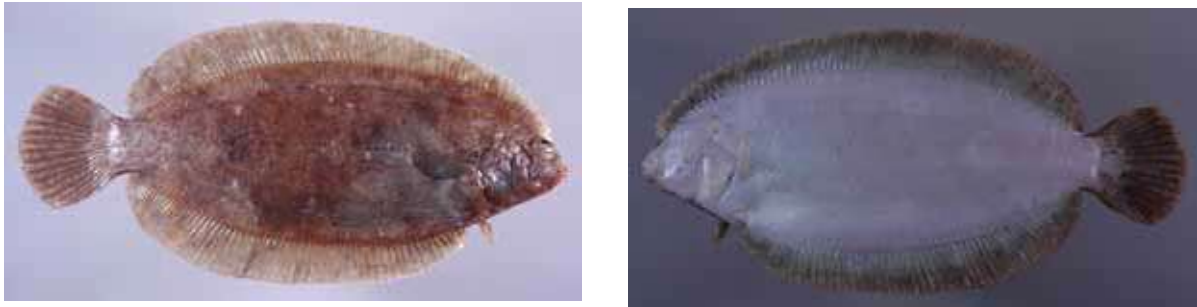
しげた としひろ
重田 利拓

図1. ババガレイ（本標本）、左図；有眼側、右図；無眼側

2009年6月1日に山口県上関町沖の伊予灘で、見慣れぬかかれい1個体が漁獲されました。詳しく調べたところ、主に北日本に生息するババガレイ（カレイ科）でした。全長25cm、オスの成魚で、瀬戸内海では初記録です。東北など北日本では、たいへん高級なかかれいとして扱われ、重要な水産資源となっています。地方名「なめたがれい」のほうが、通りがよいかもかもしれません。口が小さいこと、両眼の間に棘が無いこと、体が寸胴で長いことが特徴です（図1）。日本の太平洋側では静岡県駿河湾以北に、日本海側では（山口県を含めて）東シナ海～千島列島南部までの各地に分布します。海水温によりますが、水深50～450mのやや深場に生息し、体長は60cmに達するそうです。

冷水性の本種は、瀬戸内海のすぐ外の豊後水道、高知沖などには生息していません。けれども、太平洋側では分布が拡大しているのか、愛知県沖や、2008年から2009年にかけて、三重県南部沖でも本種が獲れているようです。

冬季の海水温が10℃前後まで低下する瀬戸内海では、北日本と同様に、カレイ科魚類のマコガレイ、イシガレイなどが重要な水産資源となっています。けれども、近年、漁獲量は大きく減少しています（図2）。今回で瀬戸内海の魚種数は739種となります

が、新顔の魚種が現れ魚種数が増える一方で、在来の重要魚種の減少はとても心配なことです。原因の究明と資源の回復が切望されます。

最後に、本件でお世話になった山口県田布施町の^{ただし}前野嘉氏、山口県柳井魚市場の松井弘明氏に、厚くお礼申し上げます。

（栽培資源部 資源増殖研究室 研究員）

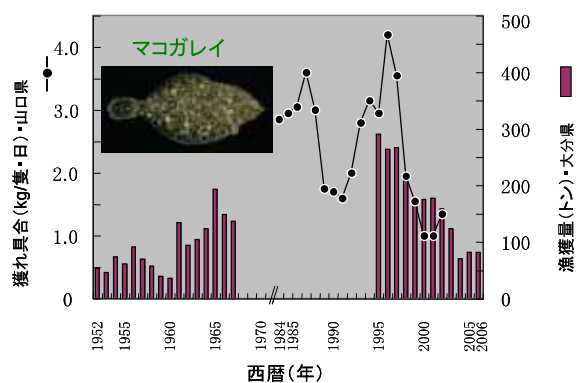


図2. 瀬戸内海・周防灘周辺海域でのマコガレイ漁獲量等の長期変動

棒グラフは大分県瀬戸内海のマコガレイ漁獲量（農水省統計より）。折れ線は山口県周防灘のマコガレイの獲れ具合（単位努力量当たり漁獲量）（木村・檜山2005より）。